中高生とともに差別と闘う

『数学と人権』

吉成タダシ（うずしおブランチ代表）

数学と人権

また新しい年が明けました。本年もよろしくお願いします。

年が明けると毎年のことですが、卒業生の受験や卒業を控え、慌ただしい気分になります。そして、一月（いく）、二月（にげる）、三月（さる）と、あっという間に過ぎ去っていきます。

＊

■授業での話がためになりました。三年生になってから人権学習をする機会がなかったので、先生が話してくれてよかったです。

昨年、一年生担当の私が行っていた中三の学級で、最後の「数学」の授業に寄せて書いてもらった感想です。決して人権の授業ではありません。自校のことながら、やはり残念に思います。中三になると、とたんに人権学習をしなくなるからです。

この時間に話したことは、数学と人権の関わりについて。まず、「自分を表現することの大切さ」について。それは人権学習の時間だけでなく、数学も含めあらゆる時間に日常化される必要があるということ。そうすることで、仲間づくりを進めていくということ。なぜなら、安心して学ぶためには、安心して教室で過ごす必要があるから。そのためにも、仲間づくりは欠くことができない。その仲間づくりのために、自分を表現することを数学の時間にも取り組んできた。数学の時間も、立派な人権学習の一つなのだ、ということを話しました。

＊

■今日の授業で、はじめは数学の授業ではないのかなと思いましたが、数学と人権の関係について知ることができました。今まで先生がなぜそんなに人権学習のことばかりを話すのか分からなかったけど、今日の授業を聞いて、少し分かった気がしました。

「他人と過去は変えられないけど、自分と未来は変えられる」、本当にそうだなと思いました。私もこれからは自分を少しずつ変えて、より良い未来にしていきたいです。

また、いつもの授業でも近くの友達と話し合って解いたり、問題をグループで協力して発表したりすることで、もっと頑張ろうという気持ちになれました。本当に一年間、数学を教えてくださりありがとうございました。

＊

私にとっては、数学の時間も立派な人権学習の一コマだということが少しは伝わったようで、嬉しい気持ちになれました。

人との関わりに感謝

続いて、受験の捉えや生き方について、今までに関わった中学生や保護者の言葉を通して話をしました。これは、以前にもここで紹介させていただいた、「励ましの言葉」（VOL. 253, 254）であり、卒業生全員が卒業式で一人一言を述べていく「別れの言葉」（VOL. 260, 261）の動画でした。

厳しい家庭状況にありながらも、家族で励まし合い、支え合いながら生きているいくつもの現実。そのことを通して、

「生まれは変えられないが、
生き方は変えられる」

ということ。

中学時に決めた進路を覆すような生き方をしても、どんな進路決定をしても、我が子を信じ抜こうとする親の気持ち。そのことを通して、

「どこに入ったかではなく
どこを出たかでもない
人と比べるのではなく
いま、自分に納得のいく生き方ができているかどうかだ」

ということ。

一人一人のエピソードを交えながら、これからどう生きていくのか。今がすべてではないし、自分一人で生きているわけでもない。そんなことを話しました。

＊

■先生の授業はとても分かりやすくて、班の人たちと意見をまとめて発表し合うのはとても良い経験になりました。二年生の頃は、なかなか自分から手を挙げることができなかったのに、三年生になってからは、先生が手を挙げやすいような感じにしてくれた（語彙力がなくてごめんなさい）ので、たくさん発表することができました。授業以外でも分からないところを教えていただいて、とても感謝しています。

ビデオを見て、中学校を卒業することがとても寂しく感じられました。私を応援してくれた家族や先生、一緒に頑張ってきた友達に「ありがとう」と伝えたいです。人権についてこれからも考え続けたいです。

＊

■先生のプレゼンと動画を見て、心が少し軽くなったし、視野も広がったように感じます。私自身、受験がゴールのように感じていた気がします。大学に通うために一度働きに出た子や、高校を途中でやめてしまった子など、様々な子がいて、それでも諦めずに勉強や働きに出るのは、目標や夢があるからなんだなと思いました。私はまだはっきりとした目標も夢もなく、それに向けてただひたすらに頑張るという感覚がまだ分かりませんが、この先それが見つかるよう、頑張りたいと思います。

先生の授業は分かりやすく、面白かったです。よく雑談に入るのが面白かったし、ためになる話もよくあって楽しかったです。一年間数学を教えてくださり、ありがとうございました。

＊

多くの子どもたちが、人生で初めての岐路に立ちます。自分の決めた進路が正しいのかどうか、またその進路に進めるのかどうか、不安な毎日の連続です。そんな思いを和らげてくれるのが、身近な友達の存在なのだと思います。だからこそ、敢えてその関係性を確かめ合える時間を持つ必要があるのだと思います。こういうときこそ、これまでの人権学習の成果が問われるのだと思います。

（次号に続く）

イラスト　中島　亜唯